

広報



かんどろ・なかよし・だいすき

2000  
2/1号

No392

# 日王山初日の出ハイキング



## ごあんない

- (P 2～5) ……まちのわだいほか
- (P 6～7) ……こんにちはは保健婦です
- (P 8～9) ……初日の出トピックス
- (P 10～11) ……みんなのひろば
- (P 12～15) ……くらしの情報



福岡県金田町



答辞を述べる  
中原奈緒さん

2000年1月より改正祝日法（ハッピーマンデー）が施行され、1月の第2週の月曜日が、今年から成人の日と定められ、これに伴い、成人式が1月11日に、総合会館で行なわれました。

今年の成人式の該当者は、121人でこのうち成人式に参加したのは、91人が出席しました。式典の祝辞では、中学校の恩師の北崎先生（現・金田中学校在職）によるユニークな祝辞が述べられ、それに対する答辞として、8区の中原奈緒さんによる答辞が行なわれました。

式典終了後、別会場での記念撮影、そして記念植樹が終わると、20才を祝う親睦会（お酒は無し）が行なわれました。親睦会の席では、上金田獅子楽保存会のみなさんによる祝儀舞が行なわれ、会を盛り上げ、各テーブルでは、5年ぶりに会った同級生と、久しぶりの会話がはずんでいました。



祝辞を述べる  
中学校恩師・北崎先生



みなさん、5年前のことを覚えていますか？  
今年二十歳を迎えられたみなさんたちが、現在の金田中学校のターニングポイントを築いたように思います。

長髪問題に取り組んだみなさんたちが、こうして成人を迎えられたことに対して、おめでとうと言うのは、まだ早いような気がします。社会人となり、今までお世話になった方たちに、恩返しができる、一人前と言えるようになると思います。それまで、おあずけということで、今後のみなさんのご活躍を心からお祈りしています。……中学校恩師・北崎先生より

# 祝・成人式



# Photograph





## まちのわだい my town TOPICS

ふれあい塾をささえる会（ボランティア団体）、金田町民生児童委員、役場職員のボランティア約50人によるそばの手打ちが、12月29日、総合会館で行なわれました。

こね鉢にそば粉を入れ、水を少しずつ加えながらこねていき、打ちあがったそばは、包丁でいねいに切られ沸騰したお湯でゆで上げられます。200人のひとり暮らしのお年寄りの方に、2食分の合計400食分がパックに小分けされ、各地区の民生児童委員さんの手によって、その日のうちに、担当地区のひとり暮らしのお年寄りのお宅に届けられました。

この手打ちそばは、年末の年越しとして恒例となり、お年寄りの方に好評をいただいています。



1月9日、糸田町民球場で下田川4ヶ町合同出初め式が行なわれました。

式典では、下田川4ヶ町の永年勤続の方や、功労者などの表彰が行なわれ、新年の地域消防防災活動に対する決意を新たにしました。



また、昨年11月9日に発足したばかりの金田町女性消防隊のみなさんも出初め式の様子を伺いに訪れていました。

地域の消防防災活動に、力を入れていき地域を守っていく、気の引き締まる2000年の消防出初め式でした。



## 体力・健康づくり

11月25日（木）に、総合会館裏仮設ゲートボール場で、第1回町長杯ゲートボール大会が行なわれました。

参加チームは、金田クラブ、福丸、宝見、神崎、混合1、混合2の6チームで試合が行なわれ、高齢者方のお互いの親睦が図ることができました。

結果は次のとおりです。

- 優勝…金田クラブ
- 準優勝…福丸チーム
- 3位…混合2チーム

## まちの伝説 かわい話し

上金田で青年が集まる場所は植高源次さんの所か八代寺だった。青年が集まって雑談するとき、先輩や後輩の極端な分け隔てはなかった。若者の指導には、お寺の和尚さんと井戸与三郎さんがあたっていた。この人は小柄な男だったが真面目な人で、よく若者の面倒を見ていた。

尋常小学校を終えた若者が青年の仲間入りをすると、必ず肝試しの洗礼をうけた。この時の先輩は日頃の先輩と違って厳しい指示をだしていた。

晴れた夏のある夜。新入りの若者が集会所に集まってよもやま話をしてしていると、先輩が大きな声で「新入りは居るか、今から肝試しをする。行き先は火葬場の下を通って墓場まで行き、一番奥にある〇〇家の墓の上に置いてある証摺の品を持って帰ること」と命令を下す。先輩の命令であり否応なしに実行しなければならぬ。

最初に指名された者が、命令された通りに一人で火葬場の前を通って墓場まで歩いて行き、〇〇家の墓を探す。墓地には大きい墓、小さい墓、新しい墓。石塔が倒れかかった古い墓など、色々な墓があつて簡単には見つからない。

提灯の明かりをたよりに、あつちへ行ったり、こつちへ来たりして探す。ときおり夜ガラスが鳴いて空を飛ぶ。窪地には蝮を巻いたヒラキチが居るので、噛まれないように用心しながら証摺の品を探す。この時の怖いこと怖いこと。



恐怖心と闘い、怖さを堪えて証摺の品を探し、持ち帰って次の者にわたす。目的を果たした若者の唇は小刻みに振るえ、紫色になつて顔は蒼白く、眼玉だけがきらきらと光っていた。今度は、次の青年が証摺品を持って〇〇家の墓まで行く。この繰り返しで青年の肝試しである。

日頃、陽気でおしゃべりな青年が、この日だけは借りてきた猫のように静かにして口もきかない。順番が近づくと急に腹が痛くなったと云つて家に帰る。こんな新人を見ても、先輩たち

## 古老が語る村の青年 上金田編

はその若者を咎めることはなかった。次の年になると、前の年に恐々と肝試しをした二年生が、先輩ぶつて新入りを指図する。入団当初はひ弱だった青年たちも、先輩から剣道や柔道、そして銃剣術などを教えてもらい、体を鍛えられたことで、兵隊検査を受ける年になると立派な大人になって、甲種合格していた。毎年行なわれる稲荷神社の神幸祭では、その年の甲種合格者だけが御輿を担ぐことになっていったが、上金田の青年は殆ど全員が軽々と御輿を担いでいた。

寄稿 池長一利

